

第6期宮前区区民会議 第1回（仮称）地域福祉部会 【摘録】

日時：平成28年8月29日（月）18:00～20:00

会場：宮前区役所4階 第2会議室

【進行 影山副委員長】

出席委員：川田、青柳、老門（聰）、中里、椿、砂川、中村、大久保、小田
（9名）

欠席委員：滝本、葛西（2名）

傍聴人：なし

議題：

1. 部会長互選

意見交換による互選で中里委員を部会長に選出

- ・ 昨年初任で部会長を務めた。当初は不安だったが、部会員の皆様のご協力が無事終えることができた。特に構えずに積極的にやっていただきたい。（青柳）
- ・ 2期目である中里さんや小田さんに引っ張っていただきたい。（中村）
- ・ 次期へのつなぎや新しい視点の導入も考えると、今期で終わりの2期目の委員ではなく、初任の方にやっていただけると良いのではないか。（青柳）
- ・ 2期4年連続で務める方もいるし、そうでない方もいる。初任・再任は特に拘らずに部会長を選びたい。（小田、川田）
- ・ 子育ての視点、高齢者の視点など様々な視点が必要だ。（小田、椿）
- ・ 中里委員を推薦したい。民生委員・児童委員協議会から選出されており、地域に根差して活動をされており、人格的にも優れておられる。（小田）

※討議の中で中里委員を推す意見が多くなり、拍手で意見の多さを確認。本人に再確認したところ、就任が承諾された。

2. 専門部会の審議テーマについて

意見交換を実施。

キーワード整理、主な意見は次ページ以降参照。

3. その他

部会名について…テーマが絞り込めた段階で協議

今後の進め方…スケジュール等の確認

専門部会の審議テーマについて（主なキーワード整理）

【過去・今期の提案・取組の考え方】

提案が全区に具体例で拡がっていくことが大切（川田・大久保）

他期との繋がりを意識（大久保） 事業化プロセスの可視化とフィードバック（川田・大久保）

協働による課題解決、行政・区民のそれぞれの役割の意識（川田・コンサル）

【定住意向が低い宮前区（市民アンケート結果） 考えられる理由】

仮の住まいで地域に愛着がない（中里・大久保） 交通利便性に課題（川田）

夜道の防犯灯の課題（砂川） 退職後に初めて気付く魅力（大久保）

【課題】

■地域コミュニティの形成

地域イベントを通じた住民交流（川田）

人がつながる場の形成（青柳）

自治会加入推進（青柳）

マンションと地域の交流（青柳・川田）

■カフェタイムマガヌ相談例

宮崎台の危険な階段（砂川）

買物がつらい高齢者（砂川）

■子どもの見守り

・地域皆で子どもを考える（中村）

・貧困が見えにくい（中村）

【取組例】

■寺子屋事業

地域人材の活用・様々な内容

富士見台小学校の好事例など

（椿・青柳・老門・大久保）

■子ども食堂

区内未実施（川田・青柳・椿）

■空き家を活用した地域のたまり場

文京区駒込「こまじいのうち」（大久保）

【実現への課題】

■夜間の居場所づくり（大久保） ■開設場所の維持費・水道光熱費・家賃等の費用（川田）

■担い手の確保、継続（川田・椿） ■契約方法や規制、行政との関係など（大久保）

※次回、こどもの見守り、居場所など、子どもの視点を中心に討議を継続

※各意見の詳細その他は次ページ以降参照

【過去・今季の提案・取組の考え方】

- ・ 第1期提案「地域のたまり場の創出」の実施事業として「商店街と連携した地域コミュニティ促進事業（NPOによる鷺沼会館での麻雀教室）」が挙げられているが、提案が区全体に広がっていくことが大切。他の地域にも同様の活動を拡げたい。（川田委員長）
- ・ 提案から取組に至った経緯がよくわからない。健康麻雀は宮崎台でも実施例がある。麻雀に限らず、具体例で広げていくことが重要だ。他の期との繋がりを意識しながら進めないと、同じような課題、提案を繰り返すことになる。（大久保委員）
- ・ 事業化の際に、区民会議の意図とずれていってしまうこともあるのではないか。提案を行政がどう活かしているのか、もっと見えると良い。（川田委員長）
- ・ 第1期は提案数が多い。実施内容等まで突っ込まずに、課題をあげたのではないかと。第5期はテーマを二つに絞り、実施内容等まで検討・モデル実施した。（中里部会長）
- ・ 第5期の魅力探訪部会では二つの取組をモデル実施し、良い形だった。（青柳副委員長）
- ・ テーマや対象を広げすぎると、できることが小さくなる。過去の内容を土台にして良い方向にいきたい。（川田委員長）
- ・ 区民会議は自治の仕組みであり、行政による事業化ばかりではなく、区民は区民の役割を果たしながら、協働で課題解決していく視点が重要になる。（コンサルタント）
- ・ 区民会議の交流会で他区の委員と話をすると、宮前区は事務局も中にはいって、比較的上手に進めている。可能性のある区だ。（川田委員長）
- ・ 行政はしくみはつくれても、地域に細かく入っていくことはなかなかできない。特に福祉分野では協働で、住民の役割も取り上げながら進めていく事が理想。（川田委員長）
- ・ 提案後のフィードバックをすれば、繋がっていくのではないかと。第1期提案で「公立保育園の園庭開放」があるが、必要なのは「子育ての場づくり」で、公立に限らなくて良い。次に繋げ、深める視点が無いと表層だけ撫でていくことになる。（大久保委員）
- ・ 保育園事情も当時は大きく異なっただろう。課題によっては過去の経緯に捉われすぎずに、現状に基づいて考え直すことも必要だ。（コンサルタント）
- ・ 今は私立などでも園庭開放が進んでいる。（中里部会長）
- ・ 園庭開放は安全安心に遊ばせられる場として私も利用し、非常に助かった。公立から始まった取組が私立に良い感じで広がっていったのだろう。（椿委員）
- ・ 新たな委員なので、新たな視点で議論して良い。（青柳副委員長）
- ・ もう少しテーマが絞られた時点で、関連する過去の提案や取組を再確認するという順番で良いのではないのでしょうか。（コンサルタント）

【宮前区の「定住志向」が低い理由とは？】

- ・ 「宮前区に住み続けたくない」というアンケート結果はショックだ。買い物などは外に行くし、仮の住まいで、地域に愛着がないのか。（中里部会長）
- ・ 昨年度の市民アンケートで、「あなたはこれから今のところにお住まいになりたいですか」という設問に対し、「はい」と答えた割合が宮前区は64.7%で一番低かった。最高は中原区の84%で飛びぬけて高いが、他は川崎区の66%など大きな差は無い。宮前

区の特徴は「わからない」と回答した比率が 20%で他区より高め。3000 名の無作為抽出の市民に調査票を送付し、1300 名（内、宮前区 201 名）が回答した。（事務局）

- ・ 交通利便性の問題ではないか。（川田委員長）
- ・ 宮前区は緑が多く、住みやすいが、夜は道路が暗くて歩くのが怖いなどの問題もある。トンネルでの事件（2006 年の殺人事件）もまだ解決していない。（砂川委員）
- ・ 賃貸で仮住まい。住み続けるかわからないという人が増えているのか。（川田委員長）
- ・ 転勤で 30 数年前に宮前区に来たが、再転勤の可能性もあり、住み続けるとは思っていなかった。「緑が多い」などの良さは退職後に初めて感じた。「もう少し便利なところがあれば、そっちに行く」と考えているのではないか。（大久保委員）

【人がつながるコミュニティのつくり方】

- ・ 中原区は地域が伸びているイメージが強い。開発が進み、新規転入者が多い。無いのはシネコンくらいで、圧倒的に便利な印象だ。（大久保委員）
- ・ 中原区では、新しいマンション住民に自治会に入ってもらったり、住民同士の交流を進めたり、周辺地域の行事やお祭りに参加するなどして、コミュニティづくりを進めている。人が集まる場所がショッピングモールなどにも自然にできている。一方、古くからの住民も高層マンションができたことで、日照権など周辺環境や地域への関心が高まり、かえって結びつきが強くなることもあるようだ。（青柳副委員長）
- ・ 宮前区は小学校区をうまく使っていない印象だ。幼稚園や小学校の保護者同士での「ママ友」が中学受験でバラバラになってしまうが、その後は選挙も防災も、違う地域単位で、知らない人とまた最初からやらなければならない。もったいない。（大久保委員）
- ・ マンション住民に自治会加入を勧誘したくても、オートロックで声かけできない。地域のイベントをやると、来てくれてそこからつながり、広がることがある。（川田委員長）
- ・ 地域のつながりは一つの魅力になる。魅力が人をつなげる。観光等の情報発信ではなく、人がつながる場所をテーマにしても良い。（青柳副委員長）

【カフェタイムマギヌでの相談例】

- ・ 90 歳代のお客様。宮崎第一公園付近から南へ降りていく階段に手すりが無く、暗く、非常に危険だと訴えていた。若い女性もよく通る道で、防犯上も不安。（砂川委員）
- ・ 高齢の女性客。転倒して腰を骨折して以来、買い物がつらくなった。特に夕方以降はまた転ぶのが怖い。うちの店で、希望に応じた食事の配達を申し出たところ、非常に喜んでいただいている。（砂川委員）
- ・ その方は砂川委員のお店があって本当に良かったが、配食サービスの利用を遠慮される方もいる。（川田委員長）
- ・ 紹介はしたが、まだ良いとおっしゃられる方も多い。店から区民会議提案で店内に設置された地域包括支援センターの連絡先を記したカードを持っていかれますが、「お世話になるのはまだ先」と考えておられるようだ。（砂川委員）

【見えにくい子どもの貧困】

- ・ 大師での痛ましい事件もあった。皆で子どものことを考えなくてはならない。（中村委

員)

- ・ 「社会を明るくする運動」での警察との意見交換で出たのは、子どもや家庭の本音をなかなか聞き出せず、貧困がなかなか見えてこないという事。子ども同士や親も隠す。昔は衣服などでなんとなく把握できたが、今はできない。(中村委員)
- ・ コンビニの店員に聞くとわかる事がある。子どもが「今日は(お金が)これだけしかない」と言っていたりする。ただ本当にお金がないのか育児放棄なのか、わからないこともある。(老門委員)

【事例：子ども食堂】

- ・ 「こども食堂」は、家で食べられない子ども達を集めて食事提供する取組で、溝の口で事例があるが、区内はまだない。新聞などでも話題だ。(川田委員長・青柳副委員長)
- ・ 増やしていけると良い。子どもの居場所はすごく大事だ。(椿委員)
- ・ 「子ども食堂」は、毎日やっているわけではない。(中里部会長)

【空き家活用によるたまり場形成】

- ・ 空き家や商店街の空き店舗を活用し、NPO が資格保有者など活用して、食事だけでなく、居場所づくりからサポートできると良い。子ども達を見守っている場ができれば、大きな問題の発生も未然に防げる。高齢者と一緒にやれるとなお良い。(青柳部会長)
- ・ 東京都文京区駒込の「こまじいのうち」。ある高齢者が木造二階建てを、地域に開放した。午前中はおばあちゃんたちが、ぼろ布のぞうりや、牛乳パックのスツールなどを作る。午後になると子ども達が来て遊び、元教師が来て勉強を教えている。(大久保委員)

【事例：寺子屋事業】

- ・ 放課後に地域の方が勉強を教えたりする「寺子屋事業」がある。(椿委員)
- ・ 学校に地域の方が入って、昔の遊びを教えるなど、いろいろやっている。(青柳委員)
- ・ 富士見台小学校の寺子屋事業では、敬老の日に合わせて、高齢者の身体の不自由さの疑似体験や、認知症のサポーター研修をやっている。民生委員などがケアメイトの資格をとって教えている。防災訓練も一緒にやる。地域のデイサービスや市民館の協力もあり、様々な団体が入って、すごく良く運営されている。英語を教える帰国子女の方など人材も豊富だ。毎回、学校から参加者を募集している。中学校でも400人の生徒を対象に二日間で認知症サポーター講座を開く計画がある。(老門委員)
- ・ 私が関わっている中原のNPOで、貧困等で授業についていけない子ども達を週2回集め、軽食を出して勉強を教えている。こちらの想いを伝え、勉強への目的意識を持たせるに苦労しながら取り組んでいる。マンションの1室を借りており、家賃等のために企業から寄付を募って運営している。(大久保委員)

【たまり場形成の課題】

- ・ 夜間は開けられない。貧困と絡めて考えると夜間の居場所づくりが課題ではないか。(大久保委員)
- ・ 空き家が見つかったも、行政が絡むと消防法などクリアすべき課題がいろいろあり、あくまでも私的な形でないと実現できないことがある。(大久保委員)

- ・ 維持費・水道光熱費などもかかる。家賃も発生する。何より担い手が集まるかどうか。
(川田部会長)
- ・ 一時の心意気で人が集まっても、それを継続していくのが、非常に難しい。(椿委員)
- ・ 私が関わっている寺子屋事業は1年契約。来年度以降の話ができないので、親御さんに対してもスケジューリングが難しい。寺子屋事業は対象とする学年やねらいが取組によって異なる。5, 6年になると塾に通って来なくなったりする。(大久保委員)
- ・ それぞれの環境で難しい。希望者があっても、運営が廻せない事もある。(椿委員)

【振り返り（コンサルタント）】

- ・ 地域のつながりが根底にあるということは共通認識だ。
- ・ どうやったら、つながっていけるか議論を続けていくと、テーマやターゲットが見えてきそう。中でもいかに困っている人の本音を引き出すかが一つポイントになりそう。
- ・ 後半はこども関連の話題が多かった。次回、子どもを主眼に話を継続していくと良いのではないか。子どもの方が本音を引き出し易く、子どもを通じて親同士がつながることも多い。
- ・ 小学校のつながりが子どもの成長と共に途切れてしまう、他の取組では違うくくりになってしまうという課題も指摘された。
- ・ 子ども食堂、寺子屋事業など事例もいくつか出た。「一緒に食事をとる」というのはより繋がりが深まる企画かもしれないと感じた。

議題3：その他

【部会名について】

- ・ テーマがもう少し絞られた時点で検討するものとする。(次回以降)

【今後の進め方】

- ・ 資料に基づいて、日程等確認した。次回は事例資料等持寄りながら、テーマの更なる絞り込みを図る。